

<大会レポート>

第8回全日本学生PG選手権は、9月9日～12日の4日間、栃木県宇都宮市のスカイパーク宇都宮で行われた。4日間とも晴天・好条件に恵まれ、宇都宮エリアのポテンシャルの高さが証明されることになった。日本各地から、腕に覚えのある(?)1st(パイロンレース)26人、2nd(デュレーション)15人の計41人の選手と、スタッフが参加し、学生日本一を決めるのにふさわしい大会となった。

(1日目)晴れ・南東の風2~3m 初日は朝から晴天に恵まれ、絶好の大会日和となった。真夏のような暑い一日となり、サーマルも活発に発生していた。タスクは14.5kmのスピードレース。あせらずパイロンを取った4人がゴールを果たし、筑波大の木下選手が46分でゴールし、初日首位に立った。

(2日目)晴れ・南東の風強め 2日目も好コンディションが期待された。学生大会としては初のレース・トゥ・ゴールのパイロンレースが行われた。各選手とも積極的にパイロンを取りに行ったが、あえなくアウトしてしまう選手もいた。そのような中、唯一前日トップの木下選手がゴールを果たしたように見えたが、GPSセクターアウトで記録に残らなかったのが残念である。学選では両方が併用されたが、レースの判定方法がカメラからGPSへの過渡期にあるので、より一層GPSに慣れる必要があると思われる。結局ゴールした選手はいなかったが、ミニマムを超えた選手が多かったため、タスクは成立した。

(3日目)晴れ・南東の風 曇りの予報に反して、朝から晴れ間が差し、ソアラブルな条件となった。10.4kmのショートタスクが組まれ、積雲の発達を読みきった中央大の小林選手がワンサーマル・ワングライドで周り、17分の好記録でゴールした。

この日はキャンプ場でレセプションが行われた。酒が入り、競技の時とはまた一味違う一面(?)を見せていたようである。

(4日目)晴れ・南東の風 大会最終日は、最終日にふさわしい好条件となった。2日目に続き、2回目のレース・トゥ・ゴールが行われた。スタート時には、二十数機のグライダーがひとつのガーグルを組み、一斉にスタートを切る壮大な光景が見られた。

勝負の分かれ目はの沖パイロン2つを落ち着いて回った選手が生き残り、好コンディションもあいまって、面白いレースとなった。その中で、学生の大御所(?)、日本大の友澤選手がトップゴール!実力を見せつけた。

(総評)8回目にして、初の4本成立、長丁場ならではの駆け引きも楽しめた。また、学生大会初のゴールレースも2本成立し、中身の濃い大会となった。その反面、けが人こそ出なかったものの、アウトサイドした選手、安全意識の低い選手が目立ち、課題の残る大会ともなった。今後、学生連盟としても、学生フライヤーの技術の向上のみならず、安全意識の向上にむけた取り組みが必要であると思われる。

(セカンドクラス) 4日間ともデュレーション競技が行われた。好条件に恵まれ、特に4日目はランディングクローズ時刻まで飛びつづける選手が続出した。条件が良かった分、長い時間集中力を保って飛びつづけられるか、渋い条件になったときにどれだけ粘れるかが勝敗の分かれ目となった。安定して高得点を出した福井県立大・大西選手が優勝した。

(結果発表)

- | | | |
|-------|----|----------------|
| 1 s t | 1位 | 友澤一成選手(日本大) |
| | 2位 | 山下広輔選手(武蔵工大) |
| | 3位 | 村上亜希選手(中央大) |
| 2 n d | 1位 | 大西康彦選手(福井県立大) |
| | 2位 | 近藤喜成選手(いわき明星大) |
| | 3位 | 小林康雄選手(弘前大) |
| 団体 | 1位 | EPO (日本大) |
| | 2位 | AIOLOS(筑波大) |
| | 3位 | ZEPHYR(京都大) |